



7月16日に東京都のお茶の水女子大学附属幼稚園で行われた苗植えの様子。説明しているのは、味の素スタジアムや国立競技場(ともに東京都)の芝生を管理し、「ポット苗方式芝生化モデル事業」の技術指導を担当している池田省治さん(写真右)

## M2. 『JFAグリーンプロジェクト』の推進

# 2009年度の苗植えが完了 2年間でサッカー場約32面分を芝生化

日本サッカー協会(JFA)は、プレジデント・ミッション2『「JFAグリーンプロジェクト」の推進』において、2008年度から「ポット苗方式芝生化モデル事業」を展開している。2年目の今年は全国50カ所に合計66万株の芝生の苗を提供。6月中旬から7月中旬にかけて各地で植え付けが行われた。2カ月程度で一面緑のフィールドとなるこの苗は、現在各地ですくすくと成長している。

### 高田宮妃殿下が子どもたちと苗の植え付け

記念すべき50カ所目は、JFAハウスと同じ東京都文京区にあり、日本で最古の歴史を誇る幼稚園、お茶の水女子大学附属幼稚園(※)となった。7月16日。澄み切った夏空のもと、日本サッカー協会(JFA)名誉総裁の高田宮妃久子殿下のご臨席を賜り、犬飼基昭会長、川淵三郎キャプテン、野田朱美特任理事も参加して園児らとともに苗の植え付けが行われた。「今年度の植え付けの締めくくりとなる節目で高田宮妃殿下にご臨席いただけたことは、非常にありがたい。妃殿下がお越しいただくことで一段とこのプロジェクトの意義や価値を多くの人に伝えられる」と感謝を述べた川淵キャプテン。今回の植え付けは、妃殿下が参加されたいとのこと意向を示され、実現したものだ。この日、妃殿下は記念行事につきものの白い手袋はなさらず、子どもたちと一緒に一本一本、丁寧に苗を植えられた。笑顔で楽しそうに植え付けられるそのお姿から、子どもたちへの慈しみとJFAグリーンプロジェクトに対する深い理解と期待が感じられ、犬飼会長をはじめ、幼稚園関係者や保護者からもみな感激の様子だった。夏休みが終わわり、子どもたちが幼稚園に戻ってくる9月には、この園庭

にも緑のじゅうたんが敷き詰められていることだろう。

※1876(明治9)年に東京女子師範学校附属幼稚園として開園した。

### 順調に推移する芝生化運動

JFAは、「ティフтон419」という暖地型のポット苗を提供している。この苗は、サッカー少年のあがれの地・国立霞ヶ丘競技場(東京都)で使用されている苗と同じ種類。土のグラウンドに田植えのように50cm間隔で植え付けた後は、水やりと芝刈りの丁寧な手入れによって約2カ月後には一面の緑美しい芝生になる。まるで魔法のような手法だ。

JFAがポット苗方式芝生化モ



千葉県稲毛幼稚園では6月16日、川淵キャプテンも参加して植え付けが行われた。写真は1カ月後の様子。夏休み明けの9月7日に芝生開きを予定している



気持ちよさそうに芝生の上に座る子どもたちの姿に、川淵キャプテンも目を細める（写真は、東京都四谷第六小学校。右は、東京都協会の植田昌利事務局長）

デル事業を本格的にスタートした2008年、すでに芝生化運動に取り組んでいたNPO法人グリーンスポーツ鳥取（鳥取県）とNPO法人つくばフットボールクラブ（茨城県）の協力を得て、JFAは30万株のポット苗を用意した。公募により提供の決まった幼稚園や小学校、サッカークラブなど全国29カ所に贈呈された。

活動2年目を迎えた今年、全国10カ所で生産されたポット苗66万株を50カ所に提供した。JFAには1年前よりも苗の提供を望む声が多く寄せられた。これは、社会的な芝生化運動をはじめ、JFAグリーンプロジェクトの活動が全国に浸透してきた表れであろう。

08年の芝生化面積は6万9386㎡、今年はいよ15万7621㎡と、2年間でサッカー場（面積105m×68

### 芝生化の定着へ向けて

JFAのポット苗方式芝生化モデル事業は全国各地に順調に広がっているが、せつかくの緑の芝生も維持していかなければ意味がない。「植えっ放しではなく、その後のフォローが大ごと川淵キャプテンも語っているように、管理し、維持させる体制を築

てこそ本事業に本當の価値が見いだせる。芝生をつくり、育て、使い続けるという一連の流れが、芝生化の真の定着とノウハウの蓄積につながるのだ。

東京都環境局が推進している東京芝生応援団の団長も務める川淵キャプテンは今年6月1日、昨年校庭が芝生化された新宿区立四谷第六小学校を訪問し、子どもたちに芝生を大事にして、芝生の上で思いっきり遊んでほしいと呼びかけた。目を細める視線の先には、芝生の上ではだしで駆け回る子どもたちの姿がある。その子どもたちもまた、自分たちが一生懸命に育てた芝生の上で汗をかく気持ちよさや外で遊ぶ楽しさ、芝生の大切さを体いつばいに感じているようだった。

「JFAが芝生化を推進するのはサッカーのためだけにやっていることじゃない。芝生の広場があれば子どもはもちろん、高齢者だって外に出たくなるもの。地域のコミュニケーションの場として大きな役割を果たす」と川淵キャプテン。子どもたちが安心して外遊びができる環境づくりは、スポーツ文化を創造したり地域を活性化させる基盤となる。そういう意味でもこのポット苗方式芝生化モデル事業は、JFAが掲げる『JFA2005年宣言』の実現に欠かせない事業となっている。

JFAは7月7日、国際連合（国連）

## ■ポット苗方式芝生化モデル事業の広がり

### 2008年度

生産拠点 **1カ所**

つくばFC（茨城県）

技術協力：  
NPO法人グリーンスポーツ鳥取

**300,000株**  
(69,386㎡分)

提供先

**15都府県 29カ所**

茅根学園 日高幼稚園（茨城県）、エルフェンススポーツクラブ、北川辺町、十文字学園 女子大学、新座市総合運動公園少年サッカー場（以上、埼玉県）、ヴィスボ柏99フットボールクラブ、共立学園 宝幼稚園、幕張インターナショナルスクール（以上、千葉県）、豊島区立南池袋小学校、児童養護施設福田会東京本院（以上、東京都）、三浦幼稚園、LCAインターナショナルプリスクール（以上、神奈川県）、小山町 足柄スポーツ広場（静岡県）、半田市 青山公園（愛知県）、湖南市立石部保育園（滋賀県）、大阪市立大江小学校、高石市立高石小学校（以上、大阪府）、神戸フットボールパーク岩岡、神戸市立港島幼稚園（以上、兵庫県）、朋和学園 育英幼稚園、朋和学園 育英北幼稚園（以上、鳥根県）、浅口市天草公園児童遊園、岡山市立江西幼稚園（以上、岡山県）、永照寺学園 永照幼稚園、大竹市晴海運動公園サッカー場、竹原市立竹原小学校（第二校庭）（以上、広島県）、村端学園 志井幼稚園（福岡県）、長野保育園、新切保育園（以上、長崎県）

### 2009年度

生産拠点 **10カ所**

つくばFC（茨城県）、ヴィスボ柏99FC（千葉県）、湘南ベルマーレ（神奈川県）、山梨大学サッカー部（山梨県）、滋賀県サッカー協会（滋賀県）、エストレラ姫路FC（兵庫県）、JAくにびき・鳥根県サッカー協会（鳥根県）、レオネ山口（山口県）、南島原市サッカー協会（長崎県）、ヴィクサーレ沖繩FC（沖縄県）

**662,248株**  
(157,621㎡分)

提供先

**24都府県 50カ所**

のぞみ幼稚園、のぞみ幼稚園 専用グラウンド、ソニーミュージック茨城プロダクションセンター（以上、茨城県）、タムラ狭山スポーツセンター（埼玉県）、松葉幼稚園、手賀の丘幼稚園、布佐幼稚園、かまがや幼稚園、稲毛幼稚園、宝幼稚園（以上、千葉県）、豊島区立三芳グラウンド、お茶の水女子大学附属幼稚園（東京都）、小田原市立下府中小学校、平塚市立八幡小学校（神奈川県）、山梨大学ハンドボールコート（山梨県）、小川村保育園（長野県）、学校法人 白藤学園 白藤幼稚園（富山県）、東公園鯖江市総合体育館 ゲートボール場（福井県）、西伊豆町立田子小学校、戸田幼稚園・保育所（静岡県）、阿山第二運動公園（三重県）、野洲川歴史公園ビッグレイク、湖南市立石部保育園、さくら坂保育園、草津市立笠縫東小学校、南部市民グラウンド（以上、滋賀県）、堺市立美原総合スポーツセンター、高石市立東羽衣小学校（以上、大阪府）、スポーツエリア姫路の形、兵庫県立淡路聴覚特別支援学校（以上、兵庫県）、上野公園多目的グラウンド、吉野北小学校、吉野小学校（以上、奈良県）、紀の川第7緑地（和歌山県）、松江市立朝陽小学校、豊川保育園 第二園庭、安来市立大塚保育所、安来市立大塚交流センター、松江市立栄道小学校（以上、鳥根県）、玉野市民総合運動公園第二運動場（岡山県）、岩国市立東小学校、休耕田、長者ヶ原グリーンスポーツ広場（山口県）、ふたば幼稚園（福岡県）、口之津保育園（長崎県）、イオンモール株式会社（熊本県）、鹿児島工業高等専門学校 多目的グラウンド（鹿児島県）、むぎの子保育園、豊見城市立与根体育施設サッカー場、とよみ保育園（以上、沖縄県）

が提唱する「国連グローバル・コンパクト」に、スポーツ統括団体として世界で初めて登録された。このJFAグリーンプロジェクトはJFAの社会貢献活動の一環であり、ひいては、この国連グローバル・コンパクトにもつながる。JFAは今後も芝生化を定着させるべく、ポット苗方式芝生化モデル事業を全国へ拡大していく方針だ。